



あま市美和・甚目寺歴史民俗資料館だより

ニューズレター

平成 26 年 3 月

No.004

編集・発行

美和歴史民俗資料館

(生涯学習課 文化振興係)

〒490-1292

愛知県あま市花正七反地 1

電話 (052) 442-8522



丹波神明社 ある初夏の風景

画像提供 竹田重夫氏

西尾張中央道、名鉄津島線にかかる陸橋を南から北に下れば、そこが丹波地区である。ここ丹波の集落は主に道の西側に集まり、東側はかつて丹波沼（名鉄津島線北側）と呼ばれ、往時はその排水をめぐり村同士が争う要因にもなった。今回紹介する写真は、そんな争いとは無縁のほほえましいもので、大正期に同地区の神明社にて撮影された一枚。たくさんの子供たちが神社に集まり、その一部が円になって遊戯を楽しむ姿がある。この写真を見たとき、神社の祭礼に集まる子供連中かと思いきや、女の子たちの姿もあり、しかも児童よりも幼児のほうが目立つ、保育園のお遊戯会であろうか、詳細は不明。

ちなみに画面左端、木で組まれた檜の上にほこら祠がある。これは津島神社のお札を納めるもので「テンノウサマ」と呼ばれ、田植え後、稲に害虫がつかないように、あるいは村に病気が入り込まないようにごすてんのう牛頭天王をお迎えし 75 日（地域によって期間が違う）ほどおまつりするもの。

*資料館では昭和 40 年以降の市内で撮られた写真の収集をはじめました。何卒ご協力のほどを！

平成 25 年度 事業報告

〈1〉文化財に関すること

市指定民俗無形文化財「下之森オコワ祭」について報告

尾張西部のオコワ祭調査委員会を設立。専門調査員による調査活動が開始される。詳しくは 8 ページに。

第 60 回文化財防火デーを実施報告

26 年 1 月 24 日、鳳凰山甚目寺ならびに海部東部消防組合等とともに、甚目寺観音境内において防火訓練を実施した。

〈2〉企画展示会

期間	展示会名
6/1～6/30	第 23 回 ときのきねんび展
4/28～6/30	郷土の文化人作品展 ～江戸時代海部地域の顔ぶれ～
10/19～11/24	近代海部郡誕生 100 年記念 海部の産業を見る
2/28～3/30	浮世絵に見る戦国武将の姿

〈3〉歴史散策事業

実施日	内容
4/21	蜂須賀周辺と蓮華寺御開帳見学
5/21	花正観音堂と二ツ寺周辺
10/27	海部一周ウォーキング その 1
11/17	海部一周ウォーキング その 2
11/24	海部一周ウォーキング その 3
12/21	ものしり検定対策散策（悪天候中止）
3/15	古文書解説講座 実地研修会

〈4〉水文化継承事業 エコきつず調査隊

実施日	内容
7/6	田んぼの学校
8/2	木曾川の生き物調査（悪天候中止）
8/9	地元河川の水質調査
8/16	まとめ&エコきつずサミット

対象は市内の小学生。本事業は宮田用木土地改良区、国土交通省木曾川下流事務所の協力により実施。

〈5〉歴史講演会事業

実施日	演題	講師
10/19	人生に悩んだら日本史を きこう	白駒妃登美氏
2/23	海部歴史講演会 テーマ「海部津島の原風景を探る～地形と土地利用について～」	溝口常俊氏 鬼頭 剛氏
海部歴史研究会の協力を得て実施		
3/15	昭和の写真集の作り方	竹田繁良氏
3/18	尾張の人々と木曾の御嶽 さん～その恵みと信仰～	小林奈央子氏

10/19 の講演会については海部郡誕生 100 年記念式典の記念講演会として実施。津島ロータリークラブ、あまロータリークラブおよび海部歴史研究会の主催によるもの。

〈6〉検定事業（主催は実行委員会）

ジュニア検定（小中学生対象）

市内の全小中学校（小 6、中 1）に出前授業を実施し、それをふまえ希望者のみ受検をする。25 年度は 147 名の児童、生徒が受検し、合格率は 45 パーセントほど。ジュニア版テキストの増刷を行う。

ものしり検定（一般）

25 年度、一般用のテキスト改訂に取り組み 11 月に改訂版を頒布する。2 月 9 日の検定は、受検者数 33 名（上級 21/初級 12）。上級編は四択 25 問に筆記問題（250～300 字）が 1 問。初級は四択 50 問、上級合格者に限りは本紙にて氏名を掲載する。合格率は上初級あわせ 54 パーセント。

改訂版テキスト→



〈7〉学習支援活動

昔のくらしと生活道具

収蔵品の中より当地域に関わり深い昔の生活道具を 8～12 点ほど学校へ持参し、3 年生児童を対象に出前授業（1 時限）を実施した。市内の 11 小学校で行い、1 校については甚目寺資料館で実施した。授業で使う道具は、箱膳、羽釜、イズミ、火熨斗、五つ玉算盤、尋常小学読本（復刻版）、蚊帳、すし箱、有線電話機、洗濯板など。

古文書に見る

押し込み強盗と お金にまつわるはなし

片桐欣也 (美和の歴史を語る会代表)

ご縁があって美和古文書研究会に参加し、市内の旧村や旧家から寄託された文書を、整理かたがた皆さんと読ませていただいております。現在、二ツ寺の横橋家から出していただいた文書を読んでいます。横橋家は、江戸時代から昭和の初めにかけて神官を勤められた、いわゆる社家です。当然文書は神社や神職に関するものがほとんど、と思っておりましたところこんな一文が出てきました。

(原文)

御達申上候事

- | | |
|-----------------|---------|
| 一 金式分 | 但、壹朱銀ハッ |
| 一 当百 | 四十九枚 |
| 一 文久錢 | 百文 |
| 一 銅錢 | 百五十文程 |
| 一 文錢 | 二百文 |
| 一 鏹錢 | 百文 |
| 一 鍋錢四文錢 | 百八十文程 |
| 右七品は、箆筭小引出しニ御座候 | |
| 一 短刀 | 壹腰 |

但、琴糸卷木目鞘

右、帳箆筭ニ御座候

メ

右者、一昨廿四日夜四ッ頃伏り、九ッ半時頃小用ニ罷出候へは、戸口より三人押入、壹人ハ裏へ廻、右三人之者拔身を引提おどし付、何れもほう冠いたし居候故、面体相分り不申、右之品強盗いたし直ニ其終立帰り、行衛相知レ不申候、依之御達申上候、以上

明治三年^{庚午}十月廿六日

海東郡二ツ寺村

神主横橋喜内 印

神社方御役所

先に、文化年間にも泥棒に入られたという**盗難届(*1)**があって、ちょっと**びっくり**吃驚したのですが、明治に入ったら、今度は押し込み強盗でした。明治3年の被害届です。江戸時代なら寺社奉行所ですが、御承知のように神仏分離で、神社方御役所あてになっています。

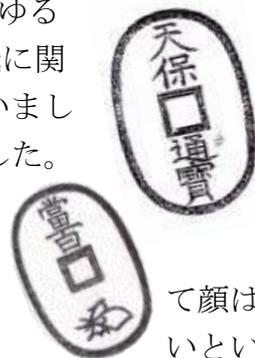
夜四^よつ頃(10時)床につき、九^{この}つ半頃(午前1時)トイレに起きたら、戸口から抜き身を引っさげて3人が押し入ってきて脅しつけ、右の品々を奪^{ほっかむ}っていった。頬冠りして顔はわからなかった、行方も分からないという内容です。

さて、盗られたのは、短刀1本とお金7種類でした。短刀はさておき、お金はいったいいくら盗られたのでしょうか。

明治政府が新しい貨幣制度を制定し、貨幣の単位が円・銭・厘となったのは明治4年(1871)、この時はまだ江戸の何両何分の時代でした。江戸時代のお金は複雑でよくわからないところがありますが、わかる範囲で見えますと…

「一朱銀」が8枚。4朱で1分ですから、金額にすると金2分となります。なお、4分が1両ですので、これは1両の半分の額に当ります。

「当百」は天保通寶のことです。1枚が銭100文、49枚ですから4,900文、4貫900文です。以下いろいろありますが、すべて小銭です。「文久錢」と「鍋錢四文



せん 銭」が四文銭で、「銅銭」「文銭」「鑄銭」

はいずれも一文銭のようです。枚数の記述がありませんが、幸い金額が書かれています。合計しますと、730 文程になりました。



でした。御一新になって、いわゆる世もあらたまつたはずですが、こんなはずではなかったでは… どうも物騒な世情になったものでした。

ところで、この強盗ども、その後はたして逮捕となったのでありましようや。いや、ひよっとすると、やっとならぬまま取調べのためもう一度被害届を… だったかも。

これに、当百の 49 枚分の 4 貫 900 文を合わせますと、5 貫 630 文。ちなみに、1 両=4 貫ですので、1 両と 1 貫 630 文となります。さらに、先の 1 朱銀の 8 枚分を含めると、総額は 1 両 3 分と 630 文となりました。2 両弱の勘定です。

当時のお金が現在でいうといくらになるかは、なかなか難しい問題のようですが、当時町奉公人の 1 年分の賃金が 2 両くらいだったともいいますので、一般庶民にとってはやはりかなりの金額でした。

なお、一口に 2 両弱といいましたが、お金の枚数も実は要注目でした。百文銭の天保通寶は、49 枚もありました。小銭も計算をしますと、四文銭が 70 枚、一文銭に至っては 450 枚。当百・一朱銀までひっくるめると、なんと 577 枚となりました。有り金を一切合財、すっかり浚えていったようですネ。また、使い出もずいぶんとあつたのでは…



この件は、2 年後の明治 5 年に、また届を提出しています。それによりますと、…右 3 人のうち 2 人は抜身を引さげ、金の在所申し聞け候わねば、切り殺すべき旨申し聞け候につき、金の在所指図致し候えば、盗み取り出て行き申し候

と書かれております。いやはや、金の在りかを言わねば殺す、といわれてはかたがたありませんネ。横橋家にとってはとんだ災難

美和古文書研究会は、毎月第 2・第 4 月曜日午後 1 時から 3 時まで美和歴史民俗資料館で開いております。お出かけください。

盗難届(*1)

御達申上候御事

- 一 男御向木綿単物壺ッ但こん浅黄豎島
 - 一 同 単物 壺ッ 但花色小紋
 - 一 同 単物 壺ッ 但こふ□
 - 一 しゅはん 壺ッ 但浅黄
 - 一 きせる 壺本 但しんちふ
 - 一 たはこ入 壺ッ 但織物かなこなし
- 右者、台所二差置候処、当月五日、夜毎之通四ッ過頃臥り、六日朝起出候処、表口戸明居候二付吟味仕候処、右之品相見不申候、定而盗賊忍入盗取候哉二奉存候、仍而御達申上候間、寺社御奉行所江被仰達被下候様仕度候、以上

海東郡二ツ寺村

社人 横橋左近

文化十二年亥六月

石川小兵衛殿 (清須代官)

右、左近御達シ被申候通り、相違無御座候、以上

右村惣庄屋 佐之右衛

「42分の森」と題したパネル展示会を展示室の一角で開催しております（平成26年6月下旬まで）。「42」とは何か、かつて旧三町時代の大字（今でいう地区）の数で、江戸時代までは、そのひとつひとつが村として機能していました。各村には独自の歴史が積み重なり、それぞれの文化を形成していたと考えれば、あま市は「42」もの多様な歴史が集まった「まち」ということになります。

そこで当館では「42分の〇〇」と題し、地域の歴史文化を発信できる機会を継続して展示する予定です。その知られざる横顔を通し、あま市の歴史文化の面白さを認識、再認識いただければと思います。



記念すべき第1回目は、あま市でも最北に位置する「森地区」です。ここは東に清須市、北に稲沢市と隣接し、小学校区は甚目寺東小になります。昭和49年に土地区画整理事業に着手して以降、宅地化が進み、人口も多く活気ある地区です。そんな森ですが、人が住み始めたのは弥生時代であり、地区内には弥生～古墳時代の遺跡が各所に点在するなど、長い歴史を有します。古代から近現代まで

様々な話しを含めながら「森」について紹介します。

(A)地名「森」のいわれ

江戸後期編纂^{へんさん}の書物『尾張国地名考（1813年刊）』によれば、地名「森」は、読んで字のごとく、ここに「森」があったことに由来すると書かれている。原文では『地名正字なるべし』と。そして、その「森」の存在を物語る和歌が伝わっている。簡単に紹介すると、

国にて春、熱田の宮というところに詣^{もう}で、道に鶯のいたう、なくものをとはずれば、中の森となんまをすというに うぐいすの 声するほどは いそがれず まだ道中の 森といへども

解説 ^{こう} 国府（稲沢市）に帰る道中、鶯の鳴いている森をさして、ここはなんという森であるか付き人に尋ねると、ここは中の森であると答えたという。（注…ただしこの森については諸説あるため、必ずしもあま市森とは断定できない）

ちなみにこの歌が詠^よまれたのは寛弘元年（1004）で、詠み人は、尾張守大江匡衡^{おわりのかみ まさひら}の妻で百人一首でもお馴染みの赤染衛門^{あかぞめえもん}である。

『尾張志（1843年刊）』を参考に地名についてももう少し見ると、この周辺（尾張）に森と付く村が三所あり、それを上中下によび分けた。すなわち上の森は中島郡の「森上村」（稲沢市）、下の森は海東郡の「下之森」（あま市）とし、ここを中の森と呼んだとある。

赤染衛門…生没年不詳。平安時代中期の女流歌人。藤原道長の室倫子に仕えた。良妻賢母の説話が多く、『紫式部日記』にもその人柄が称揚される。

(B) 森の小字

1、小字名「十五」

集落の南側に「十五」という地名がある。これは条里制の、15番目の地を意味する土地ではないかと思われる。条里制とは古代の土地区画事業のことで、一つの村を6町四方に区切り、それをさらに上下左右六等分し、図のように各升目を1~36とする。「十五」のように、そのものズバリの地名が1000年も変わらず存在していたのは珍しいが、現在は何丁目何番地となっている。これと同様に「北三之坪、南三之坪」（西側）も、条里の坪付地名の名残ではないかと考えられる。『文化財報告書大字の歴史と変化』



2、小字名「東源寺」

桃（東）源寺杖…増田村（現稲沢）に大寺ありしが、地震により潰れ、沼となりし故、ここを東源寺川と呼ぶ。『尾張志 中島郡の項』

明治の頃、寺の礎石と思われる巨石が掘り出された。ここは高低差が大きく、稲沢の悪水が一気に落ち込む場所で、現在は非常用の遊水池が作られているが、江戸時代作成の村絵図（天保の頃）にも、丸池が描かれ、恐らく排水に苦労した土地と思われる。また村の言い伝えでは、この池には龍が棲むといわれた。池の南の小字を龍見（たつみ）というのはそのため。『文化財報告書大字の歴史と変化』

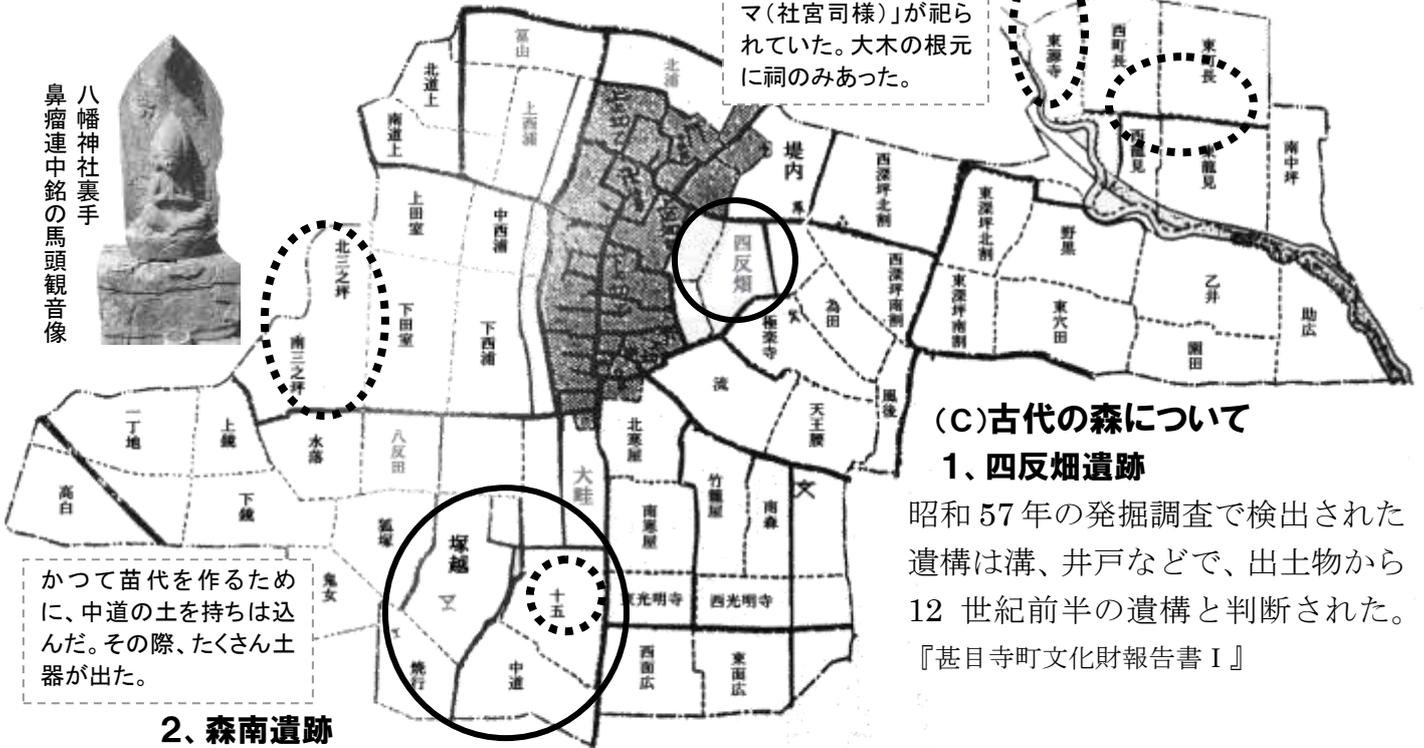
は、地元古老の話

堤内に「オシャグジサマ（社宮司様）」が祀られていた。大木の根元に祠のみあった。



八幡社裏手
鼻楯連中銘の馬頭観音像

昭和13年の地籍図



かつて苗代を作るために、中道の土を持ち込んだ。その際、たくさん土器が出た。

2、森南遺跡

該当地は狐塚・塚越・中道・焼行・十五。朝日遺跡（清須市）をはじめとした弥生時代遺跡が五条川をはさんで北東から南西に連なるが、概ね同一線上に位置するので、ここも一連の微高地上（幅 80~100m）に点在する遺跡と思われる。発掘調査では、弥生時代中期~後期を中心とする時期及び14世紀を中心とする時期の2期にわたって、集落が営まれていたことがわかった。『甚目寺町文化財報告書 森南遺跡』

(C) 古代の森について

1、四反畑遺跡

昭和57年の発掘調査で検出された遺構は溝、井戸などで、出土物から12世紀前半の遺構と判断された。『甚目寺町文化財報告書 I』

(D) 信仰に関わること・もの

(神社)

1. 中杜神社

創建は不明。かつては大明神社と称した。今も境内正面に建つ明治 11 年 (1878) 寄進の燈籠とうろう一對に旧社名「大明神社」の文字が見てとれる。当社の改名は明治 42 年 (1909) 村社の指定を受けてからと大正期編纂の『海部郡誌こうほん稿本』にあり、さらに同書によれば、最も古い棟札むなふだは文和 2 年 (1353) が残るとも記される。

太平洋戦争中、社の裏手に戦闘機を隠すための格納庫があった。空襲警戒警報が発令されると、清洲飛行場にある戦闘機は周辺村々の神社へ避難させるが、その誘導路が森の地内を通り大矢おおや (稲沢市) まで続いていた。

2. 八幡神社

こちらも創建は不明。本殿を明治 41 年 (1908) に修復し、大正 2 年 (1913) に村社の指定を受ける。『海部郡誌稿本』

昭和 20 年の空襲で、この地域に焼夷弾が落とされるも、集落を外れ、いずれもその南端に落ち被害を免れた。これは八幡神社のご加護といわれた。

(右図 ㊶ 焼夷弾が落ちたとされる場所)



(寺院)

浄土真宗 願正寺

中庄山といふ。創建は不明。中島郡中之庄村伊東祐五郎吉近の弟光近 (法名願正) が当寺を中之庄村 (稲沢市) に創建し、天文 4 年 (1535) 森村に移された。開祖である願正の名をとり寺名とした。本尊はえしんそうず恵心僧都作と伝わる木佛立像阿弥

陀如来である。『尾張志』

寛政 7 年 (1795) に鐘楼が完成し、天保 9 年 (1838) 当寺において本願寺宗徒と日蓮宗徒による法論 (教義の解釈に関する議論) が行われ、本願寺の勝利に終わった記録が残る。『美和町の歴史を語る会報第 60 号 61 号ほか』

江戸時代後期には、寺子屋を開校、師匠は伊東相養住職で寺子 (児童) は 33 名であった。明治 24 年 (1891) の濃尾震災で本堂が倒壊するも大正 2 年 (1913) に再建され今に至る。

(石造仏など)

馬頭観音像

森の地内に 3 体もの馬頭観音が祀られる。もちろんそれぞれ違う馬の名が刻まれており、いずれも馬の供養塔であることが分かる。

① 木屋連中きや 明治 20 年建立

② 鼻瘤連中はなこぶ 明治 20 年建立

③ 万力連中まんりき 昭和 6 年改造

今となっては詳しいことを知る術も無い。集落の中央、地蔵堂の横にある①木屋連中は、木折かみひがしかわ (あま市) と上東川 (愛西市) にもある。その姿、形、台座に刻まれる村々の名も同じである。②鼻瘤連中は

八幡神社の裏手に、③万力連中は新居屋から北上する新しい道沿いにある。

この像はかつて増田 (稲沢市) へ向かう旧清須街道沿いに道標とともに並んでいたという。『美和町の歴史を語る会報』

一地区に 3 つの馬頭観音があるのは市内では森地区のみ、単純にここが八神街道、清須街道の合流点で、かつて人馬の往来が激しかったことを物語っているのであろうか。

恵心僧都: 平安中期の徳の高い僧侶。



■尾張西部のオコワ祭調査委員会による祭礼調査がはじまる

平成19年(2007)「記録作成等の措置を構はずべき無形の民俗文化財」に選択されたオコワ祭(愛西市勝幡しよばたの同祭と当市下之森オコワ祭)は、25年3月にあま市と愛西市共同により調査委員会を立ち上げ、現在は12名の専門調査員による両地区のオコワ祭および下之森、勝幡地区の風習、周辺における類似祭礼を調査する。26年度も同様に各専門調査員による調査は続けられ、27年度は調査報告書の作成に取り組むことになる。



■海部歴史講演会を開催

26年2月23日、あま市美和文化会館にて「海部津島の原風景を探る～地形

と土地利用～」と題し、海部歴史講演会を開催した。主催は当市教育委員会であるが、本会の運営については海部地域7市町村の文化財担当者等で構成される「海部歴史研究会」で、当講演会の歴史は古く今回で24回目を数える。

今年度は県埋蔵文化財センターの調査研究員の鬼頭剛氏による当地域の地形および地質についての解説と、名大客員教授である溝口常俊氏の当地域の土地利用法のひとつ「島畑」について貴重なお話しをうかがうことができた。

■あま市ものしり検定

25年度はジュニア検定、初級編、上級編を実施した。下は小学校3年生から上は78歳のシニアまで、実に幅広い世代が難問にチャレンジし、まち歴史文化を改めて認識することができたと思われる。今回より上級合格者のみ氏名を本紙にて掲載する。合格者は以下10名。

(上級編合格者) 申込み順

山田一弘、熊澤節子、永田さき子、古橋雅勝、大角佳生、小島克彦、増田和仁、林小夜子、山田真功、林登子(敬称略)

おめでとうございます。

甚目寺歴史民俗資料館

開館時間 9:00～12:00、13:00～16:00
 休館日 水曜日、木曜日
 入場料 無料
 交通 名鉄甚目寺駅より南に徒歩10分
 駐車場 10台
 電話 (052) 443-0145
 住所 あま市甚目寺東大門8(甚目寺会館3階)

美和歴史民俗資料館

開館時間 9:00～16:00
 休館日 水曜日、木曜日(6月は木曜のみ)
 入場料 無料
 交通 名鉄木田駅より北に徒歩10分
 駐車場 20台
 電話 (052) 442-8522
 F A X (052) 445-5735
 住所 あま市花正七反地1